

パソコン 第1問

今日の研修は、「自分は差別なんかしないと思ってる人に聞いてほしい差別の話、マジョリティー特権について考える」と題してお話ししていきたいと思います。よろしく願いいたします。

まず、皆さんが無意識的に持っている、自分で思っていないと思っても持ってしまっているような偏見について、まずお話ししていきたいと思います。当たり前を疑う自分の偏見に気づくというテーマですね。まずですね、私たちはですね、普段、職場や学校、家庭、まあ、いろんな場面で、様々な人と接しますよね。で、よくですね、偏見って持ってると思いますかっていうふうに質問するとですね、いやあ、持ってないと思うんだけどなあっていうふうにお答えなさる方のほうが多いですね。多くの方はですね、相手のことをちゃんと理解してるつもりだとか、自分なりにちゃんと判断して相手に接しているんだと思って人と関わっている。ところが自分の理解判断そのものに、自分でも気づかないような偏見が含まれているとしたらどうなるでしょうか。

最近では、アンコンシャス・バイアスという言葉の方が有名かもしれません。今、Googleとかマイクロソフトとか世界的な企業で、たくさんこういう無意識の偏見、アンコンシャス・バイアスについての企業研修が行われています。この無意識偏見とはどういうことかですが、自分でも気づかないうちにフィルターをかけた状態で、物事を無意識的に判断してしまうことと定義されています。例えば、年齢とか体格、肌の色、人種や民族、それからジェンダーや障害の有無、社会的な背景、いろんなものですね、実は人間っていうのは無意識的にいろんなフィルターをかけて物事を判断してしまっているということがわかってきているんですね。で、こういう無意識の偏見というのは過去の経験や周囲の意見、日々、日常的に接するいろんな情報から形成されるってことがわかってきています。

こういう偏見についてですね、この偏見に無自覚でいる場合、私はこんな偏見ないよって思ってる場合は、いろんなですね、判断の単純化、決めつけをすごくしてしまう。そういった悪影響を及ぼす可能性があることがわかってきています。

ここで意識と無意識について少し整理したいんですけども、まあ、よくあの意識ってのは、あの自覚できる。氷山に例えると、海の上から外に、見てる人にとって見える部分ですね、自覚しやすいというふうに言われています。これに対して無意識は水面の中に隠されてしまっていて、それがゆえに自覚しづらくコントロールが難しい領域というふうに言われています。ところがですね、人間の行動決定のプロセスは、意識よりも無意識の方が、実はより多く関与してる。いろんな無意識がいろんな行動の決定に影響を及ぼしてるっていうことがわかってきてるんですね。

少し無意識な偏見の種類についてもお話ししましょうか。例えば、過剰な一般化と呼ばれるものがあります。これは限られたサンプルをもとに同じ属性の人全体に一般化すること、というふうに定義されています。ちょっと、こう聞くと、わかりづらいんですけども、ただこれ私自身も含めて、多くの人がやっています。例えば、どんなことか。最近の若い人は…、これだから年寄り…、みたいな、あの言い方してしまうことってありませんか。

これもですね、無意識の偏見、過剰な一般化の一種なんですね。つまり、自分の身近な人、数人がたまたま似通った傾向だから、つまり本当に少ないサンプルだけど、だけど、たまたまその人たちが似通っていたゆえに、その属性の人みんながこうなんだっていうふうに、過剰に乱暴に全てを括ってしまう。それが過剰な一般化なんですね。

ところが、実際はですね、若い人の中でもたくさん、いろいろな多様な人がいて、お年を召した人の中にも、本当にいろんな経験をして、いろんな多様な方がいらっしゃる。これが実際な訳ですね。だから、みんなこうなんだ、なんていう言い方は絶対言えないんですけど、どうしても人間って、これをやってしまいがちですね。さらに、こういう自分の経験によって作られる無意識の偏見もあれば、社会的に作られたイメージというものもあります。これをステレオタイプというふうに言います。例えば、ブラジル人は皆サッカーが好きだ。これも一種のステレオタイプですね。実際はブラジル人でも、サッカーボールなんて見たくもない、なんていう人だって実際は多分いらっしゃると思うんですよ。こういうある種、ポジティブでもネガティブでも、あまりどちらでもないようなステレオタイプもあれば、例えば、女性は理系の科目が苦手だとか、リーダーに向いてない。そんな誤った思い込みっていうのも、社会には存在します。これは全く根拠ない偏見で、事実ではないんです。例えば、世界を見ればですね、たくさんの女性の有名なリーダーや優秀な研究者の方いらっしゃいますし、日本の中にもいらっしゃいます。だから、これは根拠のない思い込みなんですけども、なぜかこうした偏見が社会で作られて、私たちは、それを持ってしまっている。これがステレオタイプですね。こういう相手が劣った存在だとみなしてしまうステレオタイプは、実は厄介というふうに言われています。